

平成26年度 法人の課題と方針

部 門
理 事 長

計 画 立 案 者
東 海 林 正 樹

曾野綾子氏は、ベストセラーになった著書を通して、「人間にとって成熟とは何か」と世に問いましたが、社会福祉法人として成熟することは、その社会的使命を果たすことに他なりません。三育ライフの使命は、地域社会における福祉の推進と向上と充実です。「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕えることによって、神の愛の実現に奉仕する」という法人理念を踏まえ、当法人はこの一年、より良い福祉サービスの提供を通して、この使命達成のために努力し、成熟した社会福祉法人として少しでも成長して参りたいと思います。

超高齢社会を迎えた日本は、現在深刻な福祉的課題に直面しています。厚労省は、65歳以上の認知症の方々が現在3百万人を超え、27年には345万人、32年には410万人に達すると推計発表をしました。本年2月3日の朝日新聞には「介護一辺倒はリスク」という見出しで、「在宅の介護」での虐待の問題が取り上げられていました。高齢の両親や伴侶を介護する事態は誰にでも起こり得るとしたうえで、虐待を防ぐ心得として、「仕事を辞めず、たくさんの人の手を借りること」とまとめられていました。

このように地域社会の福祉的必要は多岐に渡りますが、福祉事業の意義と必要性はますます大きくなっていくと言わざるを得ません。

三育ライフは、行政の支援をはじめ、多くの皆さんのボランティア活動、医療機関、教育機関等の福祉資源との有機的な連携の中で、様々な必要に対応する開かれた法人を目指したいと考えています。そして福祉活動の拠点となって、地域社会に貢献することができればと願っています。

一昨年、東京事業所は創立20周年を迎えましたが、今年、千葉事業所は創立20周年を迎えます。20年間の神の守りと関係者のご支援に対し心から感謝しつつ、志を新たにして事業の充実と成熟のために献身する所存です。

より良い福祉サービスを提供するためには、福祉・介護従事者として求められる専門性に合わせ、法人の理念に基づいた隣人愛の精神が不可欠だと確信しています。隣人愛の精神とは自分本位ではなく、相手本位の精神です。それこそ、福祉人・介護者本位ではなく、利用者本位の姿勢であり、パーソン・センタード・ケア、その人がその人らしく生きることを可能とするケアの在り方と確信するからです。

この一年、三育ライフは、職員一同心一つにして利用者本位のケアに徹する覚悟と志を新たにし、地域社会の信頼と期待に応える社会福祉法人として福祉の事業に専心してまいりたいと思います。